

## 第8学年\*組 美術科学習指導案

指導者 伊藤 みゆき

### 1 題材名 和菓子「筑波東堂」～季節感のある和菓子をつくろう～

### 2 題材の目標

- 和菓子のデザインに関心をもち、オリジナルの和菓子を主体的に制作したり鑑賞したりしようとする。 (美術への関心・意欲・態度)
- 和菓子としての目的や条件などを基に、形や色彩、材料のもつ特性を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。 (発想・構想の能力)
- 材料や用具の特性を生かし、自分のイメージに合うように表現方法を工夫しながら、創造的に表現することができる。 (創造的な技能)
- 和菓子に込められた美意識や季節感を感じ、造形的なよさや美しさ、想像力の豊かさなどを味わうことができる。 (鑑賞の能力)

### 3 題材について

#### (1) 題材観

本題材では、千年以上もの歴史をもつ日本の伝統的な食べ物「和菓子」の造形を取り上げる。和菓子には、一つ一つに季節や行事を表すなどの意味が込められており、種類も材料も豊富である。中でも上生菓子は形や色で季節を表し、イメージを膨らませながら手仕事でつくられる。小さな和菓子の中に、日本の美意識が込められており、身近にある美術文化の理解を図り深める上でも最適な題材と考える。また、日本の四季がもつ美しさを食べ物として表現し味わうということから、生活を豊かにする美術の働きを実感することができる題材である。

今回使用する樹脂粘土は、絵の具を練り込むことにより、和菓子職人と同様に多彩な色彩表現を可能にする。また、軽量で自在に操ることができ、素材のもつ質感を表現するのに適している。これらの特徴から、本物に近い質感に仕上がる所以、完成度の高い作品をつくることができる。絵を描くことなどに苦手意識をもっている生徒にも抵抗感なく取り組むことができ、五感を働かせて想像力豊かに表現できると考える。

#### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、美術の授業の中でも、立体をつくる活動に関心や意欲が高い。しかし、活動の中で、表現のアイデアが思い付かないという声も聞かれる。また、地域には豊かな自然や伝統行事が多く残っているが、生徒の様子を見ていると、それらのよさや美しさを感じながら生活することが少ないように感じられる。和菓子に関しては、三世代で住んでいる家庭が多く、和菓子を食べる機会も多くあり、よい印象をもっている生徒が多い。和菓子に関するアンケートを取ったところ、よく食べられているものはだんごや大福など、日常的に食べられる和菓子が多く、上生菓子をあげる生徒は少なかった。

#### (3) 指導観

このような生徒の実態を踏まえ、本題材では、架空の和菓子店「筑波東堂」の和菓子職人になるという設定をし、季節感の感じられるオリジナルの和菓子（上生菓子）の商品企画を行う。また、季節や行事などを想定し、食べてもらう人々の気持ちを考えながら、どんな味がするのかまで決めるようにする。和菓子を食べたいと思う生徒が9割以上いるため、意欲的に取り組むことが期待できる。また、導入の段階では、和菓子職人が上生菓子の制作を行っている映像を見ることで、和菓子のイメージを広げるようにしていきたいと考える。

#### 4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・和菓子のデザインに関心をもち、オリジナルの和菓子を主体的に制作したり鑑賞したりしようとしている。	・和菓子としての目的や条件などを基に、形や色彩、材料のもつ特性を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	・材料や用具の特性を生かし、自分のイメージに合うように表現方法を工夫しながら、創造的に表現している。	・和菓子に込められた美意識や季節感を感じ、造形的なよさや美しさ、想像力の豊かさなどを味わっている。

#### 5 指導と評価の計画（10時間扱い）

次 時	学 習 活 動	評価の観点				学習活動に即した評価規準	評価方法
		開	発	技	鑑		
1 1 2	・和菓子について話し合う。 ・和菓子の写真や制作場面の映像を見る。 ・伝統色について知る。	◎		○		・和菓子のデザインに関心をもち、オリジナル和菓子の制作に向けて意欲を高めている。 ・和菓子に込められた美意識や季節感を感じ、造形的なよさや美しさ、想像力の豊かさなどを味わっている。	・観察 ・ワークシート
2 ③ 4	・オリジナルの和菓子の構想を練る。	◎				・和菓子としての目的や条件などを基に、形や色彩、材料のもつ特性を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	・観察 ・ワークシート
3 5 7 9	・オリジナルの和菓子をつくる。 ・プレゼンテーションボードをつくり、展示の工夫をする。	○		◎		・オリジナルの和菓子のデザインを基に、主体的に制作しようとしている。 ・材料や用具の特性を生かし、自分のイメージに合うように表現方法を工夫しながら、創造的に表現している。	・観察 ・作品
4 10	・互いの作品の鑑賞をし合う。	○		○		・オリジナルの和菓子の目的や条件などを基につくられた造形的なよさや美しさに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。 ・和菓子に込められた美意識や季節感を感じ、造形的なよさや美しさ、想像力の豊かさなどを味わっている。	・観察 ・ワークシート

#### 6 本時の学習

##### (1) 目標

和菓子としての目的や条件などを基に、形や色彩、材料のもつ特性を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。

##### (2) 準備・資料

教師：パソコン、作品画像（和菓子の写真、和菓子のつくり方の映像）、プロジェクト、イメージ写真集、ワークシート

生徒：教科書、資料集、ファイル、筆記用具、色鉛筆

##### (3) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点（※評価）
1 学習課題をつかむ。 季節感のあるオリジナル和菓子を考えよう	・前時の学習について振り返りながら、本時の学習課題を把握し、意欲をもてるようにする。 ・和菓子（上生菓子）のつくり方の映像を見せ、実際に職人

		がつくり出す和菓子の色彩や質感、道具など使い方などが理解できるようにする。
2 日本の四季（春夏秋冬）をイメージさせるものや伝統行事などを確認する。	(1) 各自分でワークシートに書き出す。 (2) グループになり、意見交換をする。  〈例〉 夏 … 太陽、海、砂浜、空、入道雲、雨、金魚、紫陽花、かき氷、魚、スイカ、ひまわり、朝顔、カブトムシ、トマト、なす、トウモロコシ、赤、黄、青、オレンジ、鮮やかな色	・四季をイメージさせるものを、生徒の発言を生かしながら例として挙げ、個人での活動に入るようとする。 ・季節を感じるものを植物・食べ物・風景・気候などから連想し、ワークシートに記入するように指示する。 ・グループ活動では、互いのイメージを聞き合うことで、季節のイメージがふくらむようにする。 ・四季のイメージについて確認した言葉（キーワード）を、ワークシートにできるだけ記入し、具体的な構想に生かすように説明する。 ・キーワードを書き出せない生徒には、季節を感じることができるイメージ集を渡し、写真からイメージするように促す。 ・見た目や味わいによって季節感を感じさせ、心を和ませるという和菓子の目的や条件を踏まえながら、考えられるように個別に支援する。
3 季節感のある和菓子を、書き出した言葉から考える。	(1) 季節を一つ選ぶ。 (2) 食べてほしい人や季節に合わせた味も考える。	
4 和菓子のアイデアスケッチをする。	・季節のイメージを形に表現する。 ・キーワードをもとに色や形を工夫して、アイデアを練る。	・机間指導で個別に対応し、自分の表したいイメージを、形や色彩などの視点からアイデアスケッチに表せるように支援する。 ※和菓子としての目的や条件などを基に、形や色彩、材料のもつ特性を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (観察、ワークシート)
5 本時の学習の振り返りをする。	・次時の学習活動について伝える。	・表現のイメージがつかめない生徒には、単純な形であっても色彩で四季が表現できることを説明して活動を促す。 ・本時の活動のよかったですについて称賛し、次時の活動に生かすように伝える。